



学校だより

# やまゆり

2017年5月号  
平成29年4月28日  
横浜市立大口台小学校

## 美しい笑顔～生活を明るくするあいさつとともに～

校長 田川 斉史



一日の始まりの朝、子どもたちの明るい笑顔とあいさつに出会うと、さわやかな気持ちになり、心が温まります。にっこりと笑う笑顔というものは、美しいものです。また、笑顔は私たちが社会生活をしていくうえでたいへん大事なものだと思います。

アメリカのデール・カーネギー氏は著書『人を動かす』の中で、

- ・ 笑顔は、元手が要らない。しかも、利益は莫大。与えても減らず、与えられた者は豊かになる。一瞬間見せれば、その記憶は永久に続く。
- ・ 笑顔は、どんな金持ちもこれなしでは暮らせない。そうでない人もこれによって豊かになる。
- ・ 笑顔は、家庭に幸福を、商売に善意をもたらす。
- ・ 笑顔は、友情の合い言葉。
- ・ 笑顔は、疲れた者にとっては休養、失意の人にとっては光明、悲しむ者にとっては太陽、悩める者にとっては自然の解毒剤となる。
- ・ 笑顔は、買うことも、強要することも、借りることも、盗むこともできない。無償で与えて初めて値打ちが出る。

と、書いています。心の底から出てくる笑顔や、心の温まる本物の笑顔は、人から人へ伝わっていき連鎖反応を起こしてこの世の中を明るくしていきます。

大口台小学校でも、子どもたちの大きな声と、にっこり笑顔の「おはようございます」のあいさつは、学校を明るくしてくれています。これからも、もっともっと心のこもったあいさつができる子どもたちが増えるよう努力していきます。

交わすあいさつは、相手を認めている大切なシグナルです。あいさつが返ってこないとか私のことを気に留めてくれないのかな?と不安になります。同様に、「ありがとう。」「どういたしまして。」は互いの行為に対する感謝と敬意を、「行ってらっしゃい。」「行ってきます。」は道中の安全を願う気持ちとそれに対する感謝を、「さようなら。」「また明日。」は今日の別れと明日の希望のやり取りを、それぞれ表しているのではないのでしょうか。

ご家庭では親子、兄弟姉妹。そして祖父母等。地域では近所の方々へのあいさつと笑顔で、家庭もまちも明るくなります。もし、子どもたちからできなかつたら、わたしたち大人から実行して、毎日の生活を明るくしていきたいものです。

### 東日本大震災による被災した児童生徒又は原子力発電所事故により避難している児童生徒へのいじめの防止について

「文部科学大臣メッセージ」(平成29年4月11日 文部科学大臣 松野 博一)

(保護者、地域住民の皆様へ)

子供たちは、親や地域の大人の言動を見ています。被災児童生徒へのいじめの背景の一つには、避難されているの方々への誤解や、被災地の状況や放射線に関する理解不足からくる、大人の配慮に欠ける言動があるとも考えられます。まずは大人である私達が、被災された方々、故郷を離れて生活をされている方々の思いを理解すること、放射線について科学的に理解するとともに、科学的に思考し情報を正しく理解することが必要です。現在でも、PTA関係者をはじめとする保護者、地域住民の方々が、教育委員会・学校と連携して、被災地の状況や放射線に関する理解を深めようとする取組が進められています。引き続き、保護者、地域住民の方々と教育委員会・学校が連携し、子供たちにおけるいじめをなくす取組を行っていただきますようお願いいたします。

大口台小学校でも「いじめは絶対に許されない」という意識の徹底と組織的対応をとり、「誰もが」「安心して」「豊かに」生活できる学校づくりをめざしていきます。児童向けのメッセージを配布し各担任が教室でわかりやすく指導しました。